練馬区立石神井東小学校　　令和３年度

学 校 便 り

１月号

校長　赤尾　眞司

新しい年を迎えて

校長　赤尾　眞司

あけましておめでとうございます。

令和４年の年頭にあたり、子供たちの健やかな成長と、保護者、地域の皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。今年一年も教職員一同、一丸となって教育に当たってまいりたいと思います。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

この年末年始のお休みを、皆さまはどのように過ごされたのでしょうか。初詣、お雑煮、おせち、お年玉等、お正月恒例の伝統的な行事や、ご家庭独自の行事で楽しまれたのではないでしょうか。私が子供のころ、赤尾家には神棚がありました。正月最初にすることは、朝早くに、一家そろって若水を供えることでした。なぜこんなことをするのだろうと、子供心にも疑問でしたが、そのうちに我が家はこういうものなのだと思うようになりました。伝統的な行事の中から、また各家庭で毎年行っていることの中から、子供たちは家庭のこと、地域のこと、そして日本という国のこと、世界のことなど様々な事柄を少しずつ学んでいきます。この年末年始の休みにはそのような意味もあると思います。

今日、８日から授業が始まりました。今日元気に登校する子供の姿に、新しい年への意欲を感じました。今年も９日から２０日まで生活改善週間を実施します。生活リズムの見直しに活用してください。

正月休みに、ある雑誌で「利休のこころ」という特集を目にする機会がありました。中国で生まれた喫茶文化を、日本で取り入れ総合芸術「茶の湯」を大成させた千利休、今年は生誕から５００年になります。私は茶の湯は全く分からず、経験したこともないのですが、利休の大成した侘び茶や茶室の作り、作法や茶道具のこと、利休の茶の湯を発展させた古田織部の人となりを興味深く読むことができました。

その中に「歓待ということ」という文章がありました。歓待、今はもてなしの方が一般的な言い方でしょうか。昨年のオリンピック・パラリンピックの誘致に当たっても盛んに「おもてなし」という言葉が使われました。「もてなし」の基本は相手によって対応を変えないことにあります。歓待の意味もそこに尽くされます。それは例えれば、荒野をとぼとぼ歩いてきた異邦の人が一杯の水を求めてきた時に、家の主がにこやかに迎え入れて、一宿一飯を供するということにあります。遊牧民の世界ではこれは絶対的なルールなのだそうです。同じルールは医療にも存在します。古代ギリシャの医聖ヒポクラテスは医療人たちが自立する時、彼らに「相手が自由人であっても、奴隷であっても、診療内容を変えない」ことを誓わせました。その後の医師たちは「全ての人に等しく良質な医療を施す」というこの不可能な目標を達成するために努力してきました。医学は安価で簡単な検査法や治療法を探し求め、貧者でも医療を受けられる保健の仕組みを工夫してきました。それが今日の医療制度となり、分け隔て無く医療を施す医師の姿があるのだと思います。

「もてなし」において最も重要なのは迎えるすべての人に等しく同じレベルの歓待を以て応じることで、相手によって対応を変えることではありません。「粗茶ですが」という言葉にあるように、供するのは粗茶であらねばならない。それが「私は相手によって差別をしない」という宣言になっています。ふりかって私たち現代人はどうなのか、改めて考えさせられました。「もてなし」の本義を忘れないような行動を心掛けていきたいものです。　　〔参考：内田樹「歓待ということ」〕

◇感染症防止に向けた学校生活について

（１）基本的な感染予防策

○手洗いの徹底　　○マスクの着用　　○検温と健康観察の記録の提出

（２）保護者の皆様へのお願い

○児童本人に風邪症状がある場合はもちろん、その同居家族に発熱等の風邪症状がある場合にも、学校への登校を見合わせるようにご協力をお願いします。

○学校で発熱や体調不良の症状が見られた場合は、保護者の方の引き取りをお願いします。